のはら組便り
7月号

Vol.3　2021.7.2発行

生活の様子

梅雨はまだ続いていますが、少しずつ暑くなる日々が夏の訪れを感じさせてくれます。ひんやりと肌寒い雨の日が続いたかと思うと、真夏のように暑い日もあるため、この時期は体調管理にも十分に気を付けていきたいと思っています。

のはら組のお子さんたちは、公園での水遊びに積極的に参加しています。砂や水の感触に触れ、確かめながら世界を広げていっている姿に成長を感じます。夏は夏にしかできない体験をたくさんしていきたいと思っています。

今月の目標・うた・絵本

●7月の目標
夏の気候に配慮し、手洗いで水に触れたり、感触遊びを楽しむ。
保育士の言葉がけに反応し応答的なかかわりを楽しむ。
こまめに水分補給をする。

● 7月のうた
きらきら星　　うみ　　みずあそび　さかながはねた

● 7月の絵本
「もこもこもこ」「かおかおどんなかお」
「ねこがいっぱい」「くだもの」

こんなことできたよ！

室内では斜面を登ることで、這う動きを多く取り入れて体を動かしています。つかまり立ちをして、目線が高くなる喜びから、立とうとするお子さんも出てきましたが、ハイハイは今の時期とても大切な動きです。

運動発達で大切なことは、**発達する順番**です。赤ちゃんが動けない状態から、興味に向けて徐々に動き出し、やがて自分の力で立ち上がって歩けるようになるという順番。また脳の成熟や、筋肉の発達、機能的にも内側（体幹、背骨に近い部分）から外側へ（手先足先）向かって発達する順番があります。その段階をスキップしてしまうと、その後の姿勢や運動についてだけでなく、学習や対人面の苦手さにもつながってくるといいます。

保育室では、斜面板やマットレスなどを使い傾斜を作り、おもちゃを斜面の上に置いてお子さんが無理なく楽しみながら「這う」動きを促しています。散歩に行く時にも、長い廊下を一生懸命ハイハイして玄関まで行きます。その姿は他のクラスのお子さんも応援したくなるほど可愛らしいものです。

参考記事：Eduwell Journal　2021年03月10日『運動を通じて、身体の安心感を育てる「運動療育」とは？』北原辰也氏インタビュー記事
北原辰也（キタハラタツヤ）：児童発達支援・放課後等デイサービス「まぁぶる」児童発達支援管理責任者。全国で子どもたちへ運動あそびを通して脳神経を育てるお手伝をいしながら、講演活動を実施中

お知らせ・おねがい

●7月末から8月頃に個別面談を予定しています。
アンケートを事前に配信しますので、ご協力をお願いします。また、面談時間は別途ご連絡いたしますので、ご確認をお願いします。

●水遊びの際に、紙おむつは重くなってしまうため、布のパンツをご用意ください。
今後のトイレトレーニングにも使用します。ご用意ができましたら記名の上、お持ちくださいますようお願いします。

発行責任者：佐野生野
担当：時田久美